

第1回掛川市行財政改革審議会

公共施設再編の事例

2019年8月26日

小松 尚

名古屋大学

1. 公共施設再編の事例(学校施設)
2. 公共施設マネジメントを進める上での留意点



1. 公共施設再編の事例(学校施設)

【事例】適正配置方針の策定(愛知県清須市)

- 適正配置方針では、
 - 長寿命化工事や統廃合等による施設の最適化と、その実施時期を定める。
 - 施設維持管理・運営費の削減と持続可能な財政運営を図っていく。

公共施設統廃合再編イメージ

手法	内容	イメージ図
廃止	利用されていない施設、不要な施設・危険施設は機能を停止し、取り壊しを行う。	
統合	同一機能を持つ複数施設を1か所の施設に統合する。	
機能移転 (複合化)	異なる機能を持つ複数施設を1か所の施設に統合する。施設の取り壊しは行わない。	
機能停止	施設としての機能を停止するが、取り壊しは行わない。	

【出典】清須市公共施設個別施設計画策定委員会資料

【事例】公共施設の複合化(愛知県清須市)

- ・ 担い手や財源が減っていく中で、これまでと同じ公共施設を**同じ規模で再整備するのは極めて困難!**
- ・ これまでの施設整備の発想(必要⇒制度⇒建設)ではなく、**解決すべき複数課題**から考えてみる(課題⇒新たな公共施設像)
- ・ 例えば…

高齢者 × 学校 = 放課後の子どもの居場所確保の
学童保育

高齢者 × 保育 = 高齢者就労による保育補助での
保育・子育て支援

保育 × 学校 = 学校の空きスペースを活かした
保育・子育て支援

【課題】

- ・ 既存の縦割り組織が繋がらないと、**今後の地域課題は解決できない。**
- ・ 投資予算の縮減からだけ考えていては、**サービス水準の低下を招く。**
- ・ 地域課題を解決し、サービス水準を維持、向上させる公共施設マネジメントを!

小・中学校施設のとりえ方

- ・ **税込減 ⇒ 保有公共施設の総量を見直す**という命題に。。。
 - サービス域が市域レベルと地域(学区)レベルの施設の区別
 - 数・面積の多い(4割超)学校教育施設の処遇はひとつの焦点。
 - しかし、学校を減らすことは、地域の持続性の点で大きな問題。
- ・ 学校を「**減らす**」というとりえ方ではなく。。。
 - **学校を核に、他の公共施設を集約**する、という発想で。
 - ・ 「マイナス×マイナス＝プラス」の発想
 - 効率的な修繕・改修・建替と管理運営を行い、同時に住民や利用者にとって必要な**今日的なサービスを提供**する方策を考える。
- ・ 同時に、**市政における学校のありかた方針が必要**
 - 児童・生徒数の適正化を目的にした統廃合を進めると、将来的には一部地域にしか学校は残らない。
 - その場合、学校のない学区は若い世代に選好されにくい。
 - 各学区の将来の居住環境づくりの視点で、学校のあり方を議論する必要がある。

多目的利用や複合化、廃校跡地の活用例

- ・ 学校施設の**多目的利用**(学校教育以外)・・・**複合化の前段階**
 - － 特別教室(例:家庭科室)の地域利用
 - － 地域利用を前提にした高品質の体育施設整備(例:温水プール)
- ・ 他施設との**複合化**
 - － 例)社会教育施設(公民館、図書館:学校教育との相互連携)
 - － 例)高齢者施設(デイサービス)
- ・ 小・中学校の**集約**
 - － 小中一貫教育(義務教育学校)など今日的な学校教育への対応
 - － 幼保と小学校の連携も
- ・ **廃校**の利活用
 - － 教育施設、文化施設、宿泊施設、業務・生産施設、など
 - － 複数用途で再利用することが多い



事例：三重県亀山市川崎小学校

(コミュニティ・スクール、多目的利用、地域住民の拠点空間)

川崎小学校 校舎工事(2期)及び解体工事、外構工事竣工(2019年3月)



川崎小学校 既存プール解体工事、及び校舎工事(1期)竣工(2017年4月)



亀山市立川崎小学校 学校専用・共用・地域専用のゾーニング



ワークショップで出た意見を反映した「新・川崎小校舎のポイント」を書き込んでいます。
 (活動)はワークショップで出た、その場所で想定される活動です。

川崎小の核となる、多目的スペース「内の広場」

- 内の広場(多目的室)
 - ・2学年が1度に集まれる大きさを確保
 - ・机+椅子の利用を前提としつつも、収納スペースを確保することで平土間としての利用も可能に
 - ・音や空調に配慮し、オープンにもクローズにも使えるように
 - ・ステージは普通教室から遠い西側に配置

給食会試食会 軽運動・体操 地域講師による授業
 書初め セタ飾り作り 未就学児の学校体験
 雨天時のふれあいフェスタ 学習発表

- 音楽室、図工室
 - ・音が出る教室は、普通教室から離して配置
 - ・地域の単独利用がしやすい位置に配置

- 放課後児童クラブ
 - ・専用の玄関を設け、単独運営を可能に
 - ・独立した2つの活動室
 - ・事務室を中央に配置し、活動室の様子が見えるよう配慮

- 家庭科室
 - ・お菓子作り教室 炊き出し(災害時)

- 多目的室(生活科)
 - ・低学年の利用が多く、地域の方と利用する機会も多いので1階に

2階



- プール
 - ・2階に配置することで、周囲からの覗き見やごみの投げ込みを防止
 - ・単独利用が可能ないように、屋外階段を設置

共用

学校専用

1階

地域専用

(放課後児童クラブ)

地域活動の拠点！
 気軽に立ち寄れる地域活動室

- 地域活動室
 - ・駐車場や屋内運動場と連携しやすい配慮
 - ・交流の中心となる活動室にはカウンターを設置
 - ・更衣室や控室として使える小部屋を設ける
 - ・屋根のある広場と連携して利用できる緑帯
 - ・土足のままでも入れる土間

茶道 喫茶コーナー 地域組織の会議
 イベント準備、打ち合わせ 談話
 スポーツ大会の更衣 地域の情報発信
 学校ボランティアの拠点

地域専用

(地域活動室)



共用

学校専用

本を身近に！
 学校の中央にメディアセンター

- メディアセンター(図書室、PC室)
 - ・子ども達が日常的に利用できるよう、学校の中心に配置
 - ・PC室は将来的に、多目的室としても転用可能な設えに

図書館祭り 調べ学習
 絵本の読み聞かせ 英語教室

- 理科室
 - ・学校の専用利用が想定されるため、他の特別教室から離して配置
 - ・実験などに利用できるワークテラスに隣接

ゆとりある普通教室廻り

- 普通教室
 - ・学年運営がしやすいクラスター型を採用
 - ・すべてのクラスターが同じ条件となるように配置
 - ・各学年最大3クラスを想定し、普通教室は現状よりも広いスペースを確保

普通教室廻り
 ・学年毎に、教材庫、少人数教室、トイレ

- 管理階室
 - ・管理階室はまとめて1階に配置
 - ・職員室はグラウンドが見渡せる位置に
 - ・職員室-保健室間は直接行き来できるように配慮

- 特別支援教室
 - ・1、2階に分けて配置し、普通教室との連携に配慮
 - ・可動間仕切りにより、人数に併せて各2~3室に分けることができる設えに
 - ・専用の指導室、倉庫、水廻り(1階)を設け利便性に配慮

- 共有ゾーン: 学校と地域がどちらも利用
- 地域ゾーン: 主に地域が利用
- 児童ゾーン: 主に学校が利用
- 管理ゾーン: 主に学校の教職員が利用

↑ 主要出入口

川崎小学校 内の広場(学校・地域共用ゾーン) 竣工式



川崎小学校 内の広場(学校・地域共用ゾーン) 授業での利用



5・6年生「ジュニア救命士」救命講習(2019.6.24)

<http://www.kameyama-mie.jp/kblog/kawasaki/2019/06/page/2/>

川崎小学校 内の広場(学校・地域共用ゾーン)



川崎小学校 多目的室(学校・地域共用ゾーン)



川崎小学校 普通教室(学校専用ゾーン)



川崎小学校 図書室(2階:学校・地域共用ゾーン)



川崎小学校 学校専用と学校・地域共用ゾーンを仕切るための可動扉



川崎小学校 地域活動室(地域専用ゾーン)



川崎小学校 地域活動室(地域専用ゾーン)模型



川崎小学校 地域活動室(地域専用ゾーン)



川崎小学校 地域活動室(地域専用ゾーン)



川崎小学校 放課後児童クラブ(地域専用ゾーン) 玄関



川崎小学校 屋根のある広場(竣工式)



設計者選定後の第1回ワークショップ(2014.10.6)




地域活動室(仮称)等に関する地域WS(第2回: 2016.6.12)



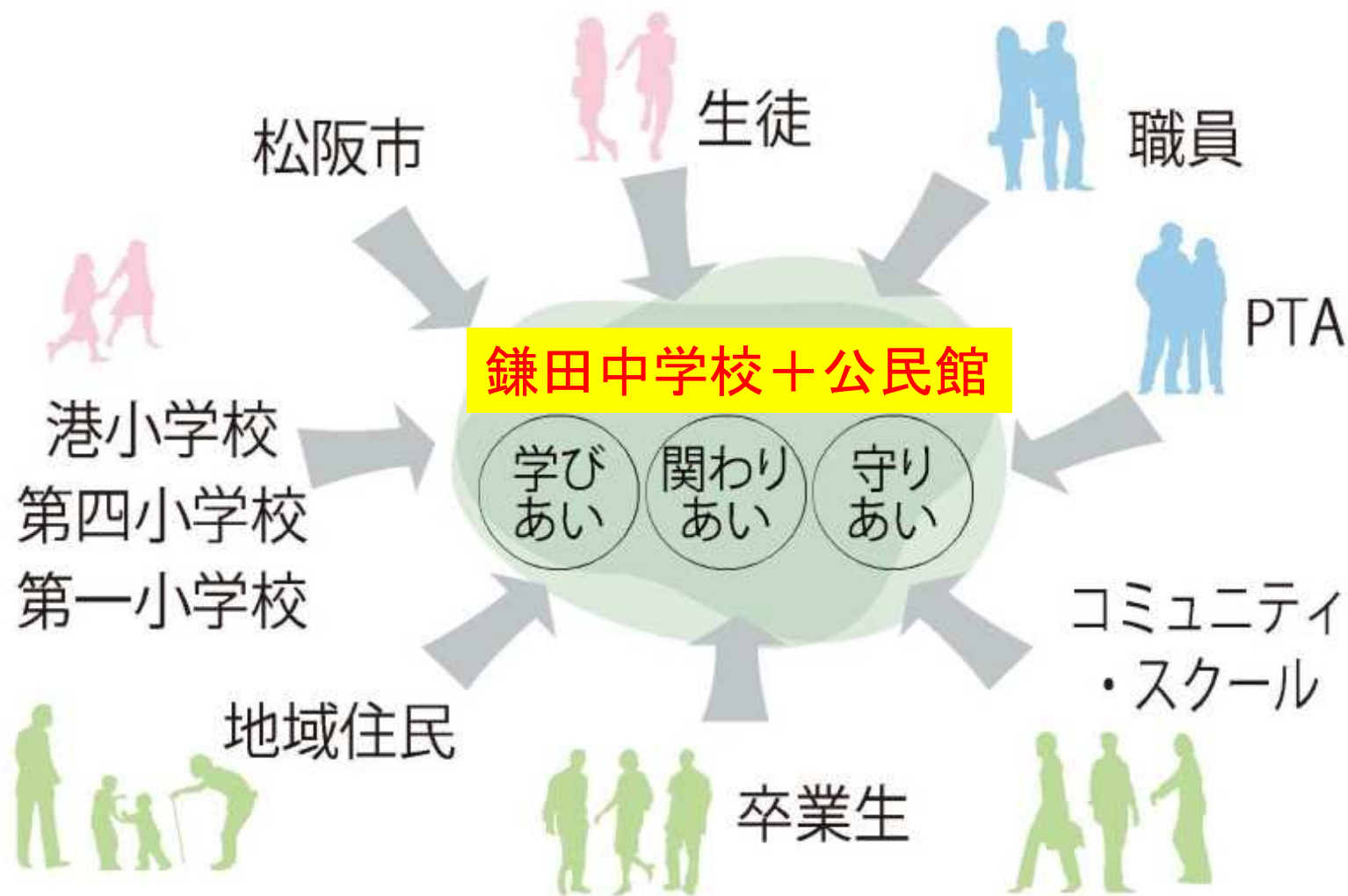
地域活動室(仮称)等に関する地域WS(第2回: 2016.6.12)





事例：三重県松阪市鎌田中学校
(コミュニティ・スクール、公民館との複合化)

コミュニティ・スクールの活動拠点



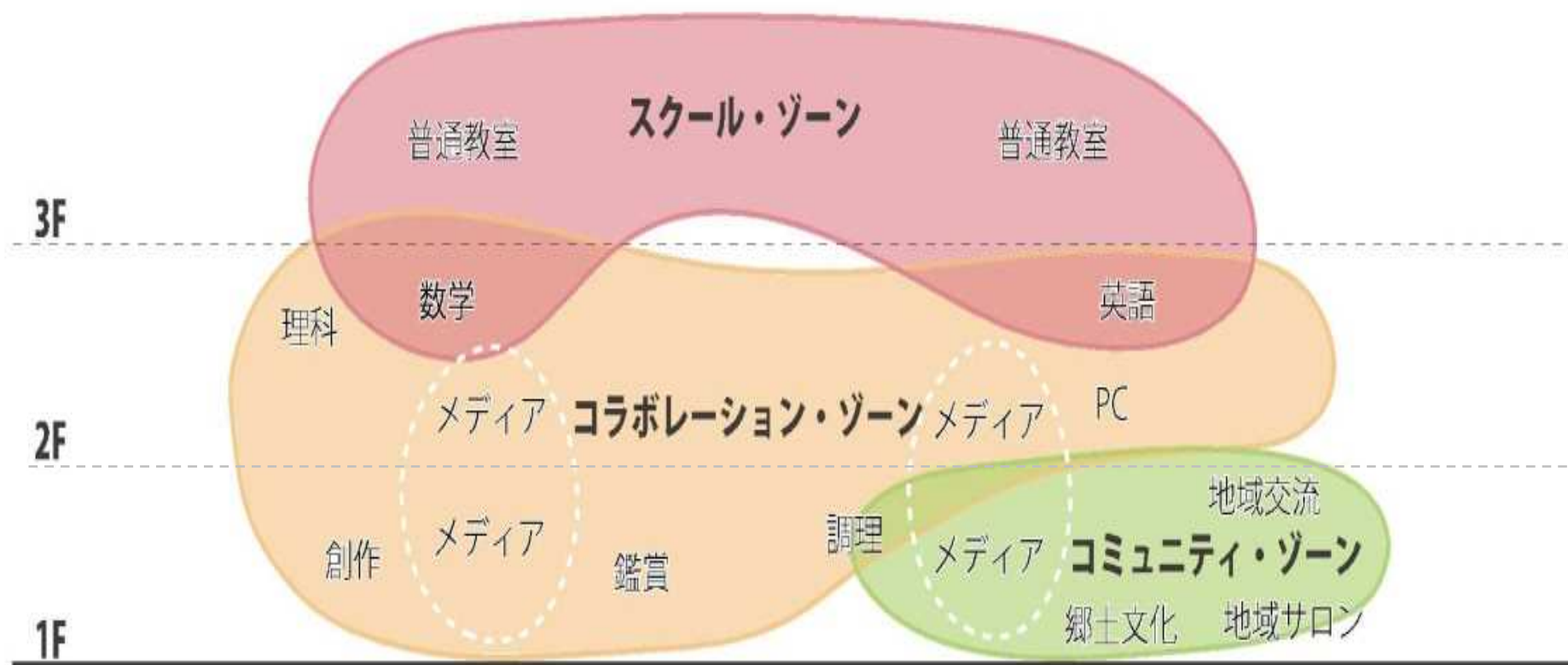
松阪市立鎌田中学校 新校舎の配置



新校舎のイメージ(外観)



学び「あい」と関わり「あい」が共存する構成



新校舎のイメージ(内観)



学校専用

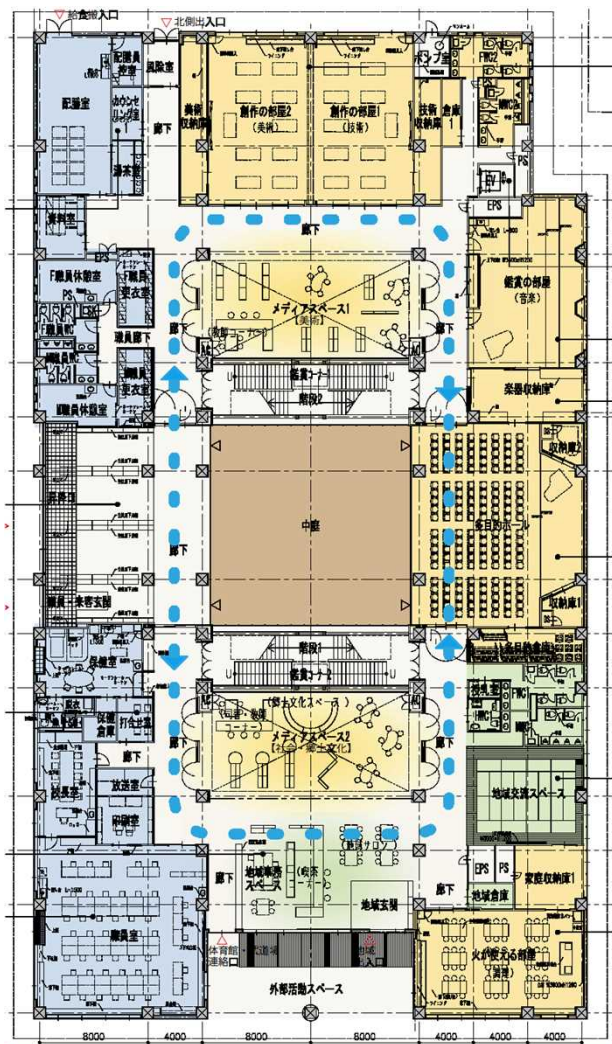
学校・公民館共用
(共用度「低」)

学校・公民館共用
(共用度「高」)

メディアスペース(サイエンス)

メディアスペース(芸術系)

松阪市立鎌田中学校(建替事業:2020年1月竣工予定)



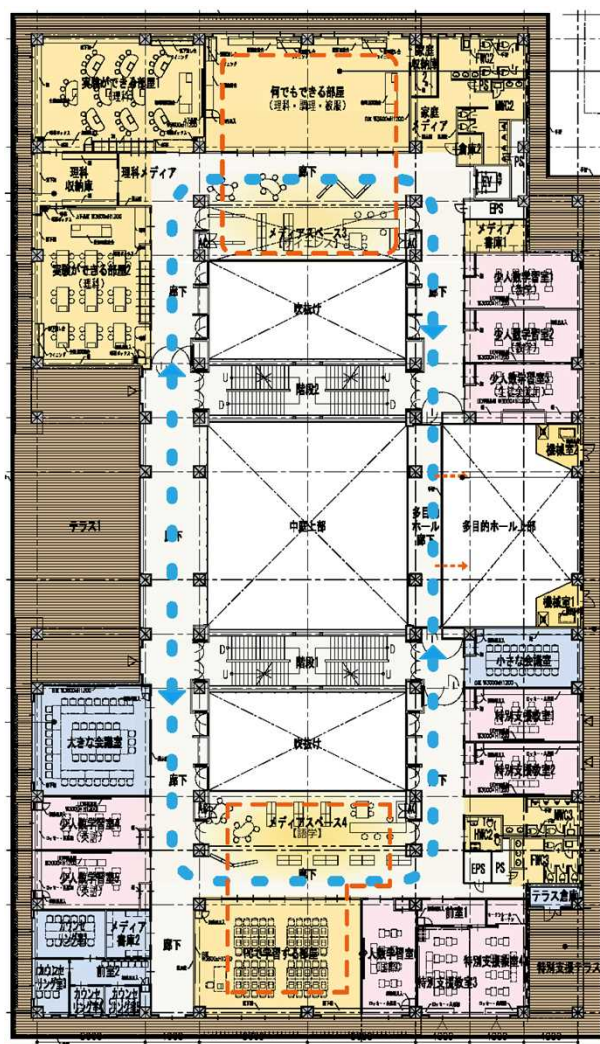
1F

学校
専用

学校・地域(公民館)共
用(共用度:高)

職員室など

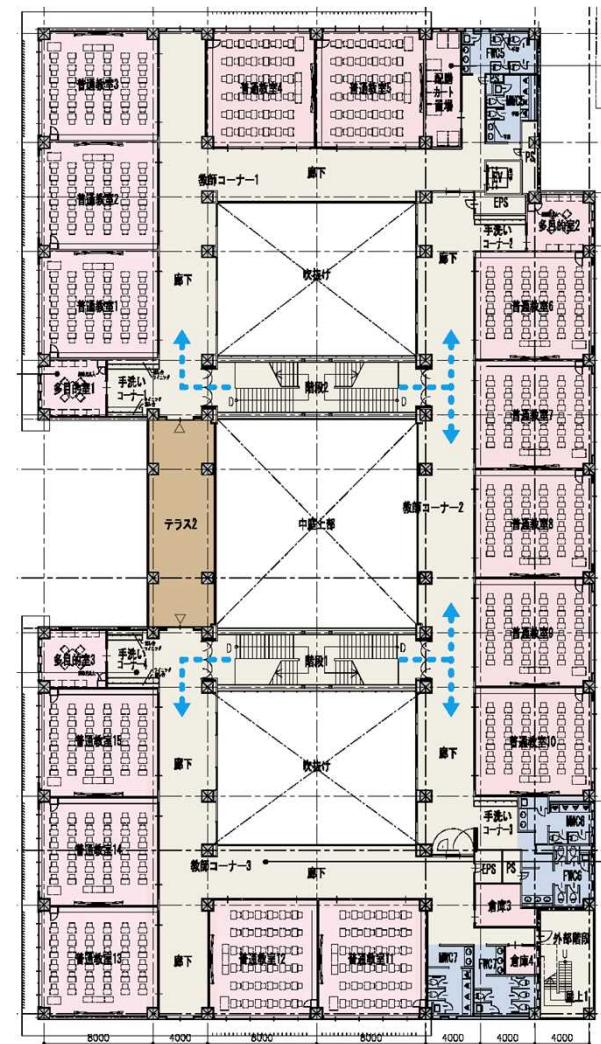
家庭科室・技術室・美術室
・音楽室・多目的ホール
メディアスペース
地域・公民館の事務室・カフェ



2F

学校・地域(公民館)
共用(共用度:低)

メディアスペース・多目的室
・少人数学習室・カウンセリング室
・特別支援教室・理科室

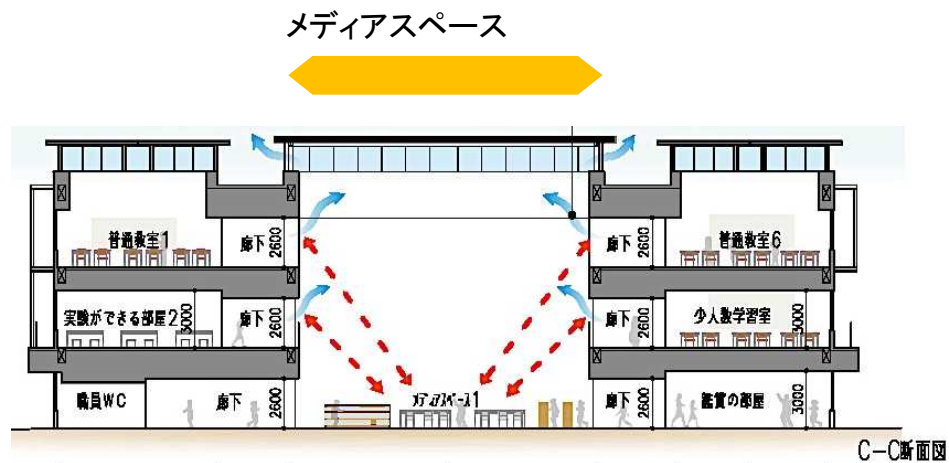
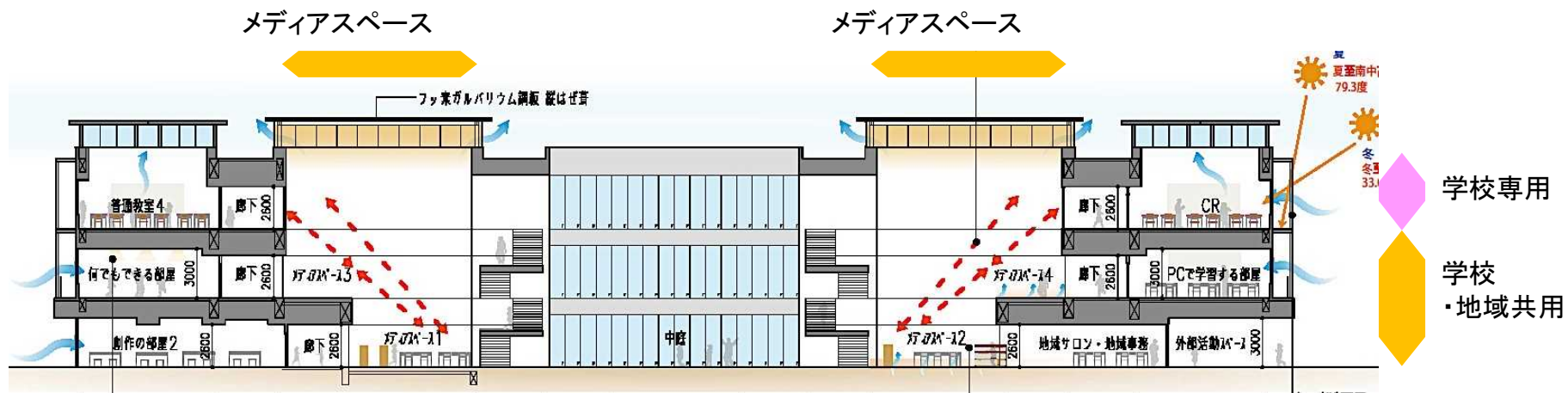


3F

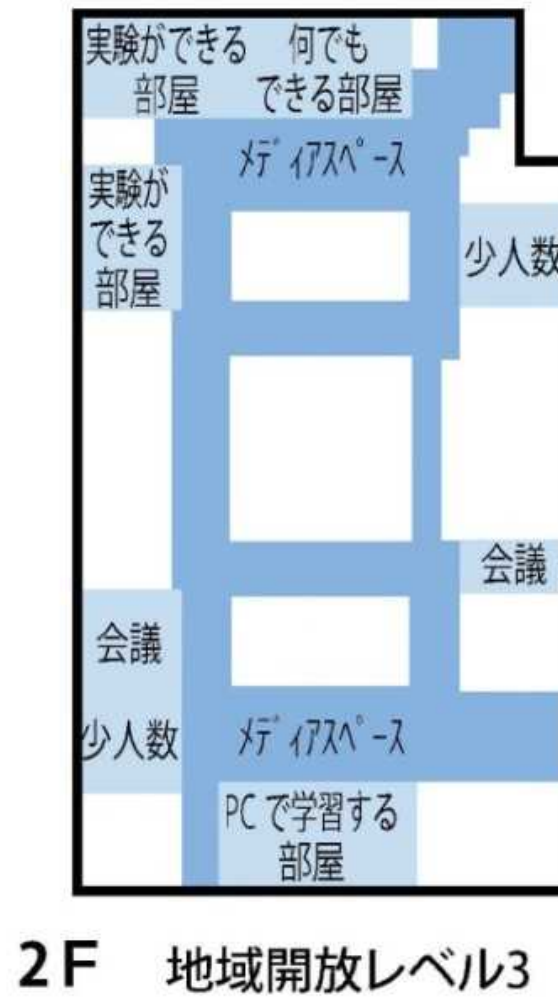
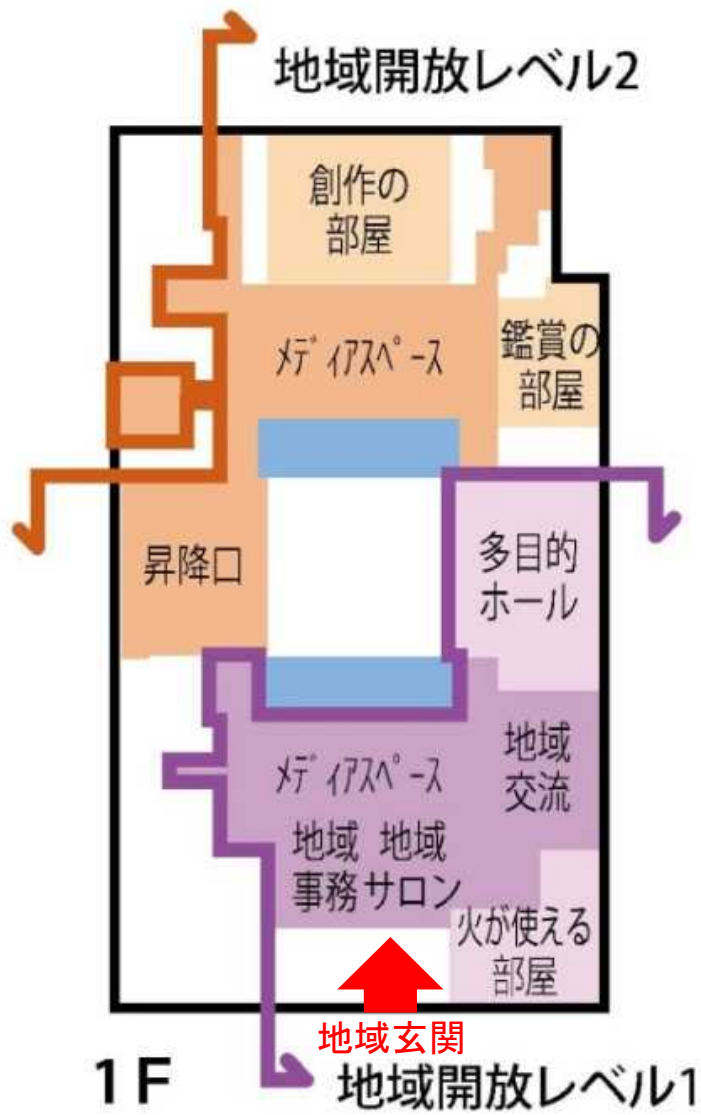
学校専用

普通教室・多目的室・教師コーナー

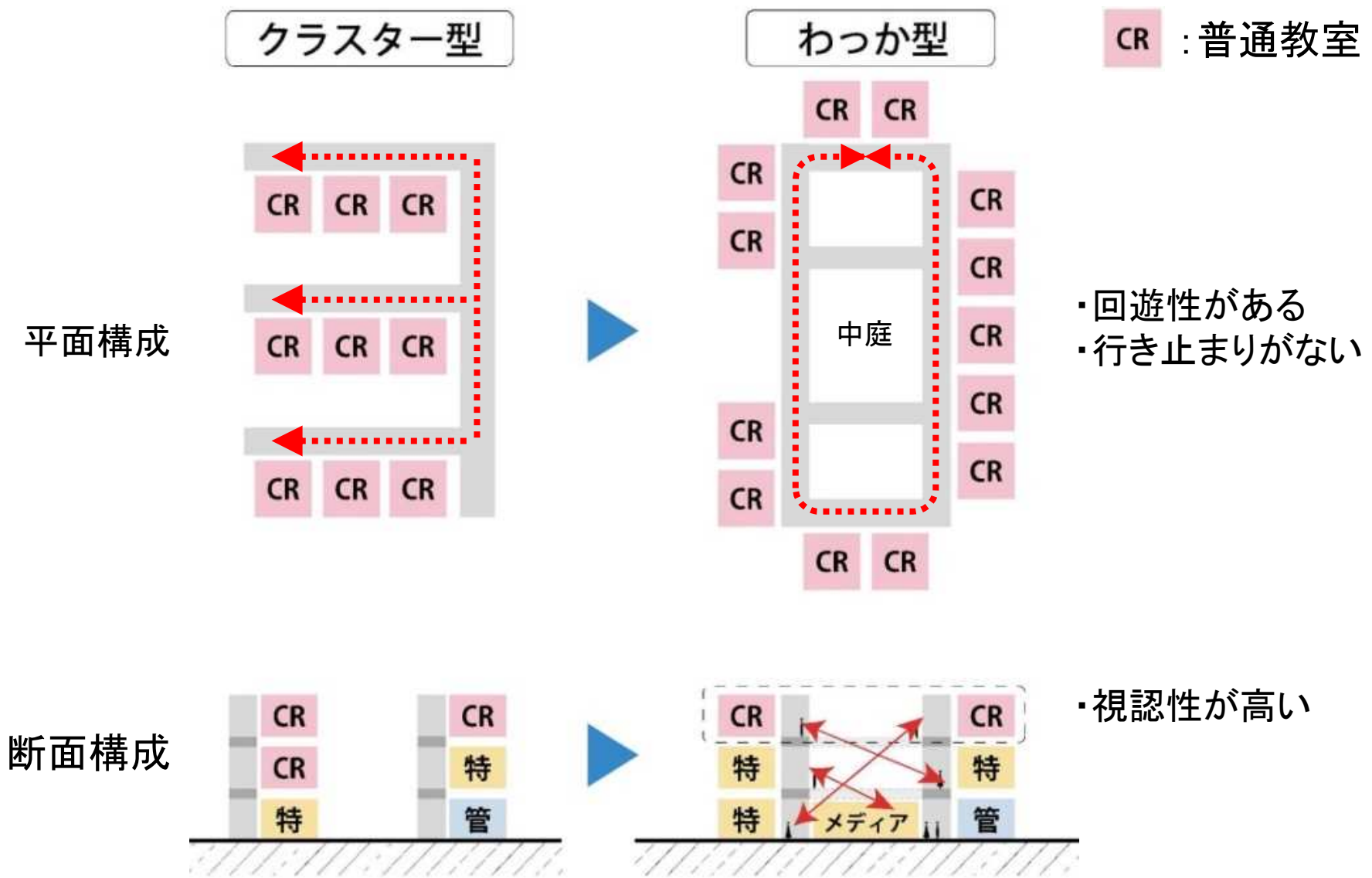
松阪市立鎌田中学校(建替事業:2020年1月竣工予定)



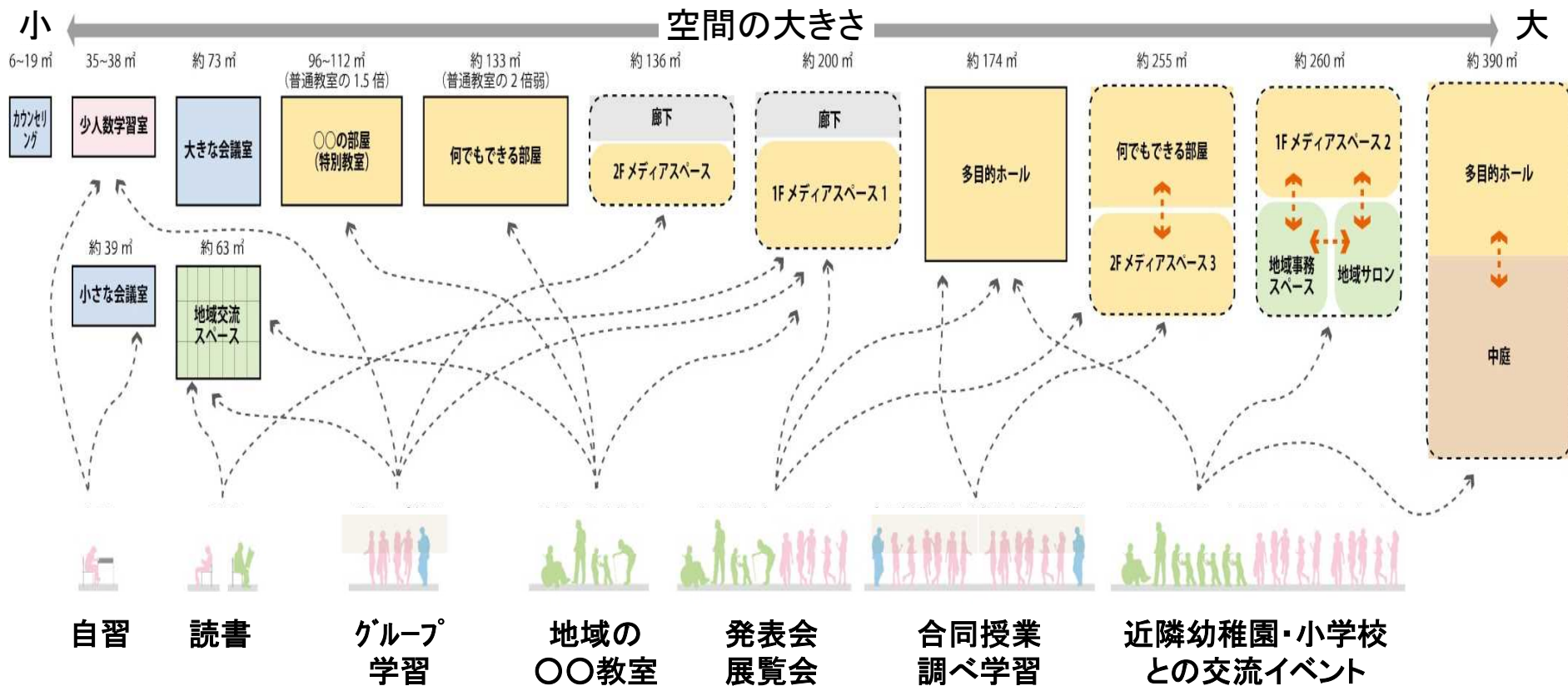
段階的な地域開放レベルの設定



中庭・吹抜けを中心に回遊性・一体感のある内部空間



多目的に利用できる大小さまざまな空間



特色ある4つのメディアスペース



新校舎のイメージ(内観)



学校専用

学校・公民館共用
(共用度「低」)

学校・公民館共用
(共用度「高」)

メディアスペース(語学)

地域交流スペース

メディアスペース(社会・郷土文化)

メディアスペースの吹抜空間のイメージ

新校舎のイメージ(内観)多目的ホール



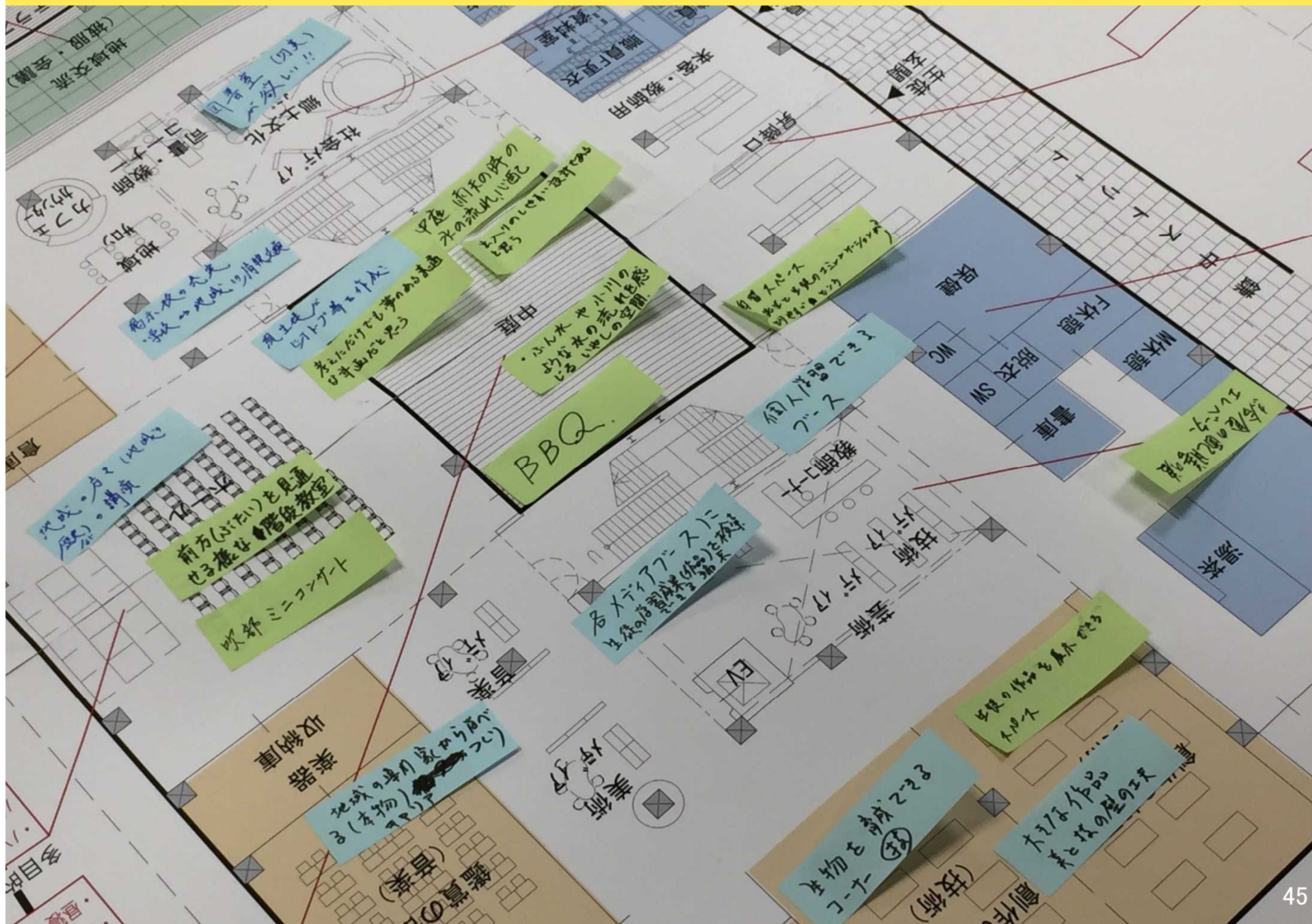
地域・学校・生徒によるフラットな議論



地域・学校・生徒によるフラットな議論



地域・学校・生徒によるフラットな議論



松阪市鎌田中学校 基本設計住民説明会(2017.07.09)



改築委員会での今後の議論の進め方について(小松提案2017.8.2)

1. 基本構想にあるさまざまな活動のアイデアを再確認して、その実現に向けた課題や可能性を考えていく。
 - 学校のカリキュラムなどとの関係
 - 既存の地域活動との関係
2. それを実現する体制づくりとしての課題や可能性を考えていく。
 - 既存の学校内組織や地域組織との関係
 - 学校運営協議会の位置づけや役割
3. 新校舎完成後ではなく、完成までの時間にトライ・アンド・チェックしながら、課題や可能性を確認していく。
 - 今の学校校舎でもできることはないか？
 - 今の学校校舎や体制でできること、できないことを具体的に確認する。
 - 年に1回、学校・地域主催のイベントを行っては？
 - 新校舎オープンの前年にはカウントダウン・イベントを行っては？
4. これを改築委員会で議論するだけでなく、ひろく参加者を募って意見や思いを出しあい、共有していく。
 - WSやアンケートの実施
 - 新校舎の考え方や可能性を広く知ってもらう機会に。
 - あらたな人材の発掘の機会
5. 類似事例の視察
 - 類似事例(部分的でもOK)の学校・地域・行政関係者から生の声を聞き、実際に目にすることで、課題や可能性をより具体的に確認する。

計画内容の発信・共有(鎌田中学校文化祭 2018年11月2日)



計画内容の発信・共有(鎌田中学校文化祭 2018年11月2日)





2. 公共施設マネジメントを進める上での留意点

公共施設の再編に向けた留意点(1)

- ・ 現状と将来に関する**きちんとした認識**を
 - 人口減少時代であり、特に若い世代の人口が減ること。
 - 市政の方向が「成長と開発」から「**集約と再編**」に移行。
 - それに従って、市政や各部署での仕事が大きく変わっていくこと。
- ・ 公共施設マネジメントは、**面積削減の話ではない**。
 - これからの**公共サービス、市民と行政**のありかたを考えること。
- ・ 公共施設マネジメントは、**その担当部署だけの業務ではない**
 - 公共サービスにはそのための場所が必要。
 - **あらゆる部署が関係する課題**という認識を！
- ・ 公共施設マネジメント推進のための**行政内の体制**
 - 既存の縦割りの仕組みが、再編や利活用を阻む。
 - 縦割りの**解体・再編**か、横串を刺す**意思決定システム**の導入を。

公共施設の再編に向けた留意点(2)

- ・ 「**マイナス×マイナス＝プラス**」の発想で、複合化や多目的利用を
 - － **双方にとってメリット**のある複合化や多目的利用を
 - ・ 縮小した施設同士の単なる同居(敷地の高度利用)だけではダメ
 - － 学校施設は地域公共サービスの受け皿(**地域拠点**)に
 - ・ 学校教育、社会教育、地域コミュニティ活動の複合拠点に
 - ・ セキュリティ対策 ⇒建築的には十分可能。問題は運営方法。
 - ・ 行政と市民の協働による施設計画・運営に向けた共創プロセスのデザイン
- ・ 一覧表ではなく**地図上での議論**を
 - － 「再編・集約」を**地理的、空間的**に検討する
 - ・ とかくお金や面積の話になりがちだが、重要なのは再編後の**実態や実感**
 - － 市域全体を見据えた**総論**と、地域事情を反映した**個別論**の両立
 - ・ 金太郎飴的ではなく、**地域の特色や事情を反映**した地域拠点づくりを。

公共施設の再編に向けた留意点(3)

- ・ **市民との合意形成**に向けたプロセスのデザイン
 - － 市民は、受益者であると同時に、**計画と運営のパートナー**になる。
 - ・ 行政、市民双方の意識改革が求められる。
 - － 行政任せでなく、地域や市民任せでもなく、**共創・共発的に**
 - ・ 体制づくり＋進行計画・運営＋人材育成 = プロセスデザイン
 - ・ 時間がかかるので、早め早めに動く。
 - ・ 情報**発信**⇒相互**理解**⇒**協力者**を増やす
 - － **成功モデル**をつくる
 - ・ 見たことがないものには誰もが不安であり、懐疑的。
 - ・ 小さくても、いい成功モデルを**連歌のように**つなぐ。
 - ・ 「できる地域」から始めるのも一手
 - － **サイレント・マジョリティ**への注目
 - ・ 現在使っていない人の意見が、次の公共施設のあり方を握っている。